



宮司プレス 第二百十五号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和六年 六月二十三日

◇宮司の柴田です。今年の梅雨入りは、殊の外、のんびりとゆっくりなのだそうです。昨年は、梅雨明けが、例年になく早かったようです。

梅雨入りが遅いと、と風水害が甚大と

なる傾向があるそうです。 論語に、「五

日一風 十日一雨」とありますが、五日に

一回、爽やかな風が吹いて、十日に一回、し

としっかりと雨が降る、天下泰平を意味しま

す。 日本では、「五風十雨」といいまして、

論語のそれと似ているような言葉ですが、若干、意味合いが違います。 五日に一回

清々しい風が吹いて、十日に一回、乾いた田畑をしつとりと湿らす、雨が降る、そのよう

な天候が続くと、「五穀豊穰」となるという意味です。 いずれにしましても、大難は小

難 小難は無難、大きな災いは

小さなものに、小さな災いは何もないように、願うばかりであります。

◇東京都知事選挙が始まりました。 日本

首都でもあり、大都市である東京都の面積は、ベルギーとほぼ同じです。 予算は、北欧の、スウェーデンの国家予算に匹敵します。 さらに、GDP（国内総生産）は、オランダと

同じ規模だそうです、一つの国家に匹敵する巨

大都市の選挙なのです。 したがって、日本国内のみならず、世界からも注目される

由縁でもあります。 史上最多の立候補者で、

しかも当選者は一人なのに、同じ政党から複数の人が立候補しています。 候補者の掲示

板は、学校の近くに設置されますが、選挙には全く関係のない、児童や生徒に見てほしくないような写真が掲載されました。（迷惑条

例に基づき、警察の指導で撤去されたそうです

す。 これは、民主主義を愚弄していま

すし、民主主義を盾にした、自由勝手主義

民主主義の劣化のものでもありません。

まさしく、日本人の美質が、失われつつある

ことが憂慮されることではないでしょうか。

日本人の美質は、三つありまして、一つは、

万理万象に神仏を見出し、謙虚に感謝し、

恐れ敬い慎み深く生活したのであります。

二つめは、弱い立場にある人、困った人には、必ず手を差し伸べ、助け合い支え合って生きてきました。 三つめが、とても重要で、日

本人たる本質だと思いますが、どんな困難に

赴いても、正直・正義・倫理道徳を駆使

して乗り越えようと努力することです。 その日本人の美質の本質によって、今日の繁栄

と栄華を勝ち得たのではないかと思えます。 日本は、先の大戦の敗戦により、民主主義国家となつたと思われていませんか。 もちろん

一人一人の人權が尊重され、より高度で

自由な民主主義国家に成長を遂げたといえます。 実は、慶応四年三月十四日、明治天皇様は、明治政府の基本政策である、「五箇

条の御誓文」を宣布せられました。 その第一条に、「万機公論に決すべし」と仰せに

なられたのでありますから、百五十六年も前から民主主義国家であったといえるのではないかと思えます。 しかも、万世一系の天皇陛下の思し召しなのであります、まさに、世界で一番古く、しかも、一番人口の多い、世界屈指の立憲君主国なのです。 今こそ、日本人の美質を取り戻さなければならぬと思えます。

◇しかしながら、世相は長引く円安、少子高齢社会、人口減少と、課題が目白押し、私共の地域も御他聞に漏れず、「課題克服地域」であります。 課題を克服し、伝統文化を継承し、特色ある「まちづくり」を構築しなければなりません。 そして、「課題地域」を「価値ある地域」に格上げしていくのです。 私共も、「課題克服神社」といえます。 しかしながら、伝統的祭典神事神賑行事を継続して

いく、「継祭」。 新たな祭典行事を企画立案

し、人々の集まる場所を提供する、「起祭」。 日々、月毎、季節毎の恒例祭、様々なお祭りを一生懸命におつとめをする、「多祭」。

「継祭」「起祭」「多祭」で、「価値ある神社」となるようつとめてまいりたいと思えます。

◇冒頭申し上げた、「日本人の美質」ですが、実は、松下幸之助さんも、同じように、「日本人の道徳」も、やはり、三つあると仰っています。

それは、「衆知・和・主座を保つ」だそうです。 みんなの知恵を集めて、創意工夫をして何事にも取組む。 そのためには、皆と仲良く手を携えなければなりません、和を大切にするので。 そして、主座を保つ、大切な地域社会を皆で守りぬいていく事なのです。

◇来月の十五日で、宮司就任十九年目を迎えます。 明年は、節目の二十年となります。 宮司就任一年目を期して発行を始めた宮司プレス先月で九十八年となりました。 毎月一回の遅れのキャッチアップ、実現に至っていません。

んが、今月で、十九年目に突入です。

小林一茶の俳句に、「うたたねに 叱りてのなき 寒さかな」とあります。 至らないことと多々あるうかと思えますが、みなさまがたの叱咤激励、時にはお諫等も受け止めながら、謙虚につとめて参ります。 関係各位の方々と一致団結して、しなやかに知恵をしぼり、工夫をして、彦島八幡宮のより一層の発展の為に努力申し上げます、課題を克服した「価値ある神社」に、ステップ アップできますように努力する所存です。 かわらぬ御支援を心からお願い申し上げます。

御自愛愛くださいませ。

◇六月の祭典行事報告

▼恵美須神社例祭 *六月十日

